



小諸高濱虚子記念館

■アクセスマップ



交通アクセス

- 電車 ●長野新幹線 佐久平駅→JR小海線のりかえ
小諸駅下車→徒歩15分 (タクシー4分)
(佐久平駅からタクシー15分)
- 車 ●上信越自動車道 佐久北ICから10分
小諸ICから10分

市立小諸高濱虚子記念館

虚子の偉業を顕彰するとともに小諸時代の貴重な作品・資料を保存展示する市立の記念館。虚子の作品を読み親しむ多くの俳句愛好者から寄付を受けて建設し、平成十二年三月に開館しました。隣に、虚子の旧宅「虚子庵」を同時に一般公開しています。

- 開館時間/AM9:00~PM5:00
- 休館日/水曜日(祝日にあたるときは、木曜日)
年末年始(12月29日~1月3日)

- 入館料
 - 一般/300円 団体(30人以上)200円
 - 小中学生/200円 団体(30人以上)150円
- 会議室使用料 一日/1,500円

〒384-0006
長野県小諸市与良町二丁目3番24号
TEL.0267-26-3010 FAX.0267-26-3011

詠」は東洋的な宇宙観に基づくもので、昭和二十九年には文化勲章を受章。昭和三十四年四月八日、神奈川県鎌倉で没しました。



明治七年、伊予松山に生まれた高濱虚子は中学時代より、郷土の先輩正岡子規に兄事。京都遊学を経て上京してからは、新派俳句の俊秀として活躍しました。俳誌「ホトトギス」を舞台とした文芸活動は俳句にとどまらず、写生文、小説と多岐にわたっています。昭和三年に提唱した「花鳥諷

近代俳句の巨匠 高濱虚子

小諸市街、浅間山を望む





虚子と小諸

虚子が太平洋戦争の戦火を避けて、小諸に疎開したのは昭和十九年九月でした。当地小山栄一の援助のもと、厳しく美しい風土に接した虚子の詩精神は新たな躍動を見せ、此処に「小諸時代」という新たな世界を現出しました。四季を通じて豊かに変化する大自然、ときおり噴火する浅間山、遠く蓼科山にかかる柔らかな雲、そして人々の暖かい人情は虚子をどれほど喜ばせたことでしょう。昭和二十二年十月、小諸を去るまでの約一千日のことでした。

虚子筆句屏風一双

足掛け四年に亘る虚子の小諸時代、小山栄一は一家の疎開生活を大いに支援しました。虚子は小諸を去るに際し、その好誼に感謝して自らの代表句十二句を半切に認め寄贈しました。十二句は正確に十二ヶ月に配され、裏面には鉛筆でその指示がなされていたといえます。栄一はこれを六曲一双の屏風に表装し、永く小山家の家宝として大切に伝承してきました。このたびの公開によって、多くの方々に虚子墨跡を楽しんでいただけるようになりました。

虚子庵

昭和六十三年、田中当喜男氏から小諸市に寄贈された「虚子庵」は現在公開されている唯一の虚子旧宅で、当時のままの姿で保存されています。本来は現在地から通りを隔てて東側に建てられていたものです。ガラス戸越しに差し込む木洩れ日に静かに息づく三間半の縁側からは、今でも「縁側散步」を楽しむ虚子の聲音が聞こえてくるようです。



笠石の碑

「秋晴の浅間仰ぎて主客あり」
昭和三十一年六月、浅間の焼け石を基礎として、小山栄一が自費で建立。場所は虚子の散歩道の一角にあり、姿はちようど笠を被った旅人のようなです。

